2018 年度春 アジア神学セミナー 第 8 回

2019/6/28

中国の近代化にキリスト教はどうかかわったか

担当：渡辺 祐子 自己紹介：本学教養教育センター所属、キリスト教研究所所員。専門は近代中国キリスト教史・満洲国におけるキリスト教伝道。所属教会は日本キリスト教会宇都宮松原教会。

はじめに

1. 近代化とはなにか？

・経済

近代社会の経済体制＝資本主義

封建制→資本主義体制。中小の生産者層の誕生→民衆の富の蓄積。産業資本家の誕生。→社会主義へ。

・法

法治主義、三権分立、議会制度／人格の平等、基本的人権の尊重／所有権の不可侵、契約の自由

・政治

個人主義、自由主義、民主主義／国民国家 nation state

2. キリスト教と近代化との関係

- ・ヨーロッパの近代文明、近代法、近代政治、国際政治の原則、近代国家観（ナショナリズム）を紹介
- ・近代教育の導入
- ・社会福祉事業

教育と福祉は、近代的人間観の実践の場でもあった

3. 外来思想と中国との関係

近代以前の外来思想→中国思想に同化される、もしくは中国思想を補完する

近代以後の外来思想＝欧米思想（キリスト教）→中国思想には同化されず、自立的に中国に影響

→ キリスト教の独自性のゆえ

帝国主義支配との関連

4. 在華宣教師と「近代化」

1) 洋務運動

洋務＝foreign matters。アロー戦争以前「夷務」という言葉に代わるもの。狭義は外交に関わることがら。広義は諸外国に倣った改革事業全般。

第二次アヘン戦争（アロー戦争）終了後から日清戦争までの時期、特に同治中興※の時期に採用された改革運動。伝統的体制を温存維持しながら、テクノロジー、特に軍事技術を西洋から導入する。「中体西用」論。「自強」self-strengthening.

※同治中興：1862—1874 年。同治帝の統治期。Tongzhi Restoration (⇔Meiji Restoration)

①洋務運動の目的と方法

曾国藩「目前は、夷の力を資(かり)て、以て勦(そう)を助け運を濟(すく)いて、一時の憂いをとくことを得、将来は夷の智を師として、以て勦を助け運を濟いて一時の憂いを紓(と)くことを得、将来は夷の智を師として、以て炮(ほう)を造り、船を制(つく)り、尤(はなは)だ永遠の利を期すべし」(『曾文正公全集』奏稿「覆陳洋人助勦及採米運津摺」咸豊十(1860)年十一月初八日)

②科学技術導入の具体的な方法

西洋科学を学ぶ必要→ 翻訳館の設置へ。

1862 年、北京の総理衙門に同文館付設。翻訳館兼外国語学校(通訳養成)。プロテスタント宣教師 W.P. マーティン(アメリカ人、下記参照)が同文館教師に。

1864 年、マーティンが漢訳した『万国公法』が同文館から出版される。

1869 年、広方言館(上海外国語文字学館が前身)に翻訳館を置き、プロテスタント宣教師ジョン・フライヤー(イギリス人、下記参照)を招聘。自然科学、技術、歴史、国際法等々の外国所が翻訳される。その数 200 あまり。

* William Alexander Parsons Martin (漢語名、丁韞良、1827-1916)

アメリカ長老教会宣教師。1850 年来華。天津条約交渉時の通訳官。同文館で、国際法を教える。『万国公法』の翻訳以外にも、『天道遡源』『格物入門』(全 7 巻)の著者として知られる。1869 年校長に就任。宣教師を辞任。

来華当初の伝道活動の不振 → 改宗のためにはまず西洋化が必要であるという確信。キリスト教と西洋文明は彼にとって同一のもの。『万国公法』は聖書に次いで影響力を発揮するはず。「神を知らぬ政府に、神と神の永遠の正義とを認めさせるだろう」

* 『万国公法』 Henry Wheaton, *Elements of International Law*, 1838, Philadelphia.

初めて中国に紹介された国際法。原著は 19 世紀国際法の代表的著作。

第一卷 積公法之義明其本源題其大旨

第一章 積義明源(近代国際法の形成過程)

第二章 論邦国自治自主之権(近代国際法の主体である主権国家に関する説明)

第二卷 論諸国自然之権

1 論諸国自護自主之権(国家の基本権に関する説明)

2 論制定律法之権

……………以下平時の外交について、戦時国際法について等々、全四巻。

日本への影響: 1865 年(慶応元年)、開成所が返り点をつけ、固有名詞に振り仮名をして翻刻。中国から日本へのキリスト教の影響。

* John Fryer (傳蘭雅、1839-1928)

1861 年、香港に英国聖公会宣教師として到着。1863 年、同文館英語教師に就く。1865 年同文館を辞し、上海へ。翻訳館勤務。1896 年までに 110 以上もの翻訳を行う。

1876 年、上海格致書院の設立運営に関わる。1896 年中国を去り、カリフォルニア大学バークレー校・東洋語学初代教授に就任。

③留学事業と宣教師

1872 年、政府が留学生アメリカ派遣事業を始める。容閔の献策。

容閔 (1828-1912) : 香港のモリソン記念学校で宣教師ブラウンに学ぶ。ブラウンの帰国に伴い、1847 年最初の留学生としてアメリカへ。イエール大卒。

留学事業は 1881 年まで続き 120 名の学生が送られたが、保守派の反対で中絶。

④洋務運動の終焉

・ 1895 年の日清戦争における敗北＝洋務の失敗とみなされる。なぜ失敗に帰したのか？

○部分的改革・体制内改革の限界

○守旧派との対立 テクノロジーの導入と伝道的宗教観念の衝突。民間資本が育成されず。

洋務運動に関わった人々の中で、その限界を指摘し、乗り越える思想が生まれた。

→ 洋務から変法へ。宣教師のかかわりがさらに強まる。同時に革命思想（孫文）の胎動が始まる。

・ **Fryer** 「現在の中国の教育制度、宗教、政府のありかたが全く足りないことは明らかである。目の前の日本の刃やこれから予測される西欧列強の支配から、どのようにして中国を救うことができるのか、この問題の解決に迫られていることに多くの人々が気づき始めた。外国の武器、外国の技術、外国の軍艦、これらはみな試してきたが、全く役に立たなかった。それを用いる人々がまともでなかったからである。こうした人々が金を使って買い物をして無駄である。彼らがまずしなくてはならないことは、訓練と教育を受けることだ。・・・いうまでもなく、いま中国が最も必要としているのは、道徳的、精神的復興であり、知力の復興がそれに続く。知力だけが発達しても、道徳と精神が伴わなければ、中国の今後の必要が満たされないだけでなく、目前の危機にも対応できないだろう。キリスト教宣教師の教育事業はまさにこのためにあるのであって、これは不可欠の要素である。キリスト教なしで中国は立ち行かない。もはやキリスト教を拒むことはできないのだ。・・・」 *The Chinese Recorder*, Jan. 1896.

2) 戊戌維新 (1898 年 6 月～9 月)・変法運動

清仏戦争の敗北

↓

軍事中心の洋務運動の限界露呈。西洋議会制度への関心高まる。

↓

日清戦争の敗北＝変法運動を決定づける

↓

初期変法論が深化。実現に向けた具体的提言。

1895 年 5 月、康有為による「公車上書」。北京に科挙試験を受けに来ていた受験生 1300 人の連名。「拒和、遷都、変法」の議。 公車＝举人（科挙地方試験合格者）

7 月、康有為は仲間の梁啓超らと「強学会」を結成（近代政治・教育制度を紹介するための啓蒙組織）。

間もなく、康有為はイギリス人宣教師ティモシー・リチャード（以下に紹介文）と接触。

康有為、1898 年までのあいだに、7 度に亘って皇帝光緒帝に「上書」を提出。リチャードの助言。

- * ロシアと日本を範とする改革を上から（皇帝主導で）行う。
- * 孔子教を国教とする。
- * 憲法制定、制度局の設置。
- * 纏足禁止。

① 戊戌維新

1898 年 6 月、光緒帝による『明定国是（国是を定める）』の詔
ピョートル大帝や明治天皇のように、上から立憲君主国家樹立を目指す。

- ・ 科挙の改革
- ・ 近代的教育制度の導入。特に京師大学堂の設立。→ 現北京大学
- ・ 新式軍隊の設立
- ・ 民間商工業の新興

→ ことごとく、守旧派の妨害を受ける。京師大学堂以外殆ど失敗。

9 月、西太后、袁世凱らと組んでクーデター。光緒帝を幽閉。若い維新派を処刑。康有為、梁啓超は日本に亡命。 = 戊戌政変。戊戌維新失敗。百日で失敗したので百日維新。

② ティモシー・リチャードについて

イギリスバプティスト教会派遣宣教師。1870 年に来華。数年間山東省煙台で伝道活動。1876 年に華北 5 省を襲った飢饉が転機となる。旧来の手法による伝道が全く進展しなかったことに加えて。救援活動を通して清朝政府の無力さに衝撃を受け、知識人との接触を通してキリスト教ないし西洋文明による中国社会の改革を目指すようになる。→ 洋務派官僚李鴻章の信頼を得、1890 年 7 月、李の要望に答えて雑誌『時報』の主筆に就任。200 以上もの論説を書き「変法維新」を主張した。

- ・ 変法運動への影響

康有為は、啓蒙組織設立という発想を、「広学会」から得た。

広学会 (the Society for the Diffusion of Christian and General Knowledge amongst the Chinese)
1887 年に発足。プロテスタント宣教師が中国に設立した最大の出版社。西洋の人文・社会科学の文献を漢訳、紹介。改革のための処方箋を提示。運営資金は、実業家の理事たちが拠出。実務は宣教師が担当。リチャードは 1891 年から 1916 年まで主宰。運営に最も尽力した宣教師。

広学会の出版物の中で最も読まれた雑誌 = 『万国公報』: 前身は Young J. Allen が 1868 年、上海で創刊した『教会新報』(週刊)。1889 年 2 月に広学会により復刊。日清戦争勃発以後戦争ニュースを掲載したため、知識人、士大夫層の需要が増加。1907 年、アレンの死去に伴い停刊。

1898 年、リチャードは、光緒帝の側近になるよう要請を受ける。光緒帝は、広学会の書物に親しみ、沢山の書籍を購入していた。しかし、最初の面会日に西太后のクーデターが起き、実現せず。

③変法維新派知識人のキリスト教観

・康有為

「(康有為) 先生はイエス教に対して独特の見方をしていた。イエス教が魂の世界のことを語る時、その完成度は仏教には及ばず、現世のことを語る時、その精緻さは孔子に及ばない。イエス教の優れた点は、直裁、かつ純粹であること、単にひとつの教えを示しながら、深い思いを込めて人類は兄弟であり、人類は平等であると明言していること、エリートたちはそこに真理を求め、民衆は実際的な問題に適合させるので、全ての民を救済する上最も有効だということである。仏教でいういわゆる不二法門(唯一無二の方法) である。康有為先生は中国に布教すべき宗教は孔子教であり、仏教やイエス教ではないとしているが、それは決して後者を排斥しようというのではない。実際人々の習慣や歴史という観点から考えてそうせざるを得ない(孔子教にしないでならない) からなのだ。」楊克己「民国康長素先生有為梁任公先生啓超師生合譜」商務印書館、1972 年、p268。

・譚嗣同(戊戌政変で西太后に処刑された 6 君子のうちのひとり。維新派の中で最も過激)

「府、庁、州、県全てに孔子廟が建立されているものの、ただ官の漢学の間が、これを祀らなければならないだけである。・・・孔子廟は一時の勢いでおわってしまった。このように、どうしてこの教えの行く末に期待が持てるだろうか。西洋人はイエスを尊敬しているが、彼らはどんな学問をしていても必ずイエスに帰るのである。病気が治っても金を稼いでも、必ず(イエスに) 報告する。それがイエスから与えられた賜物だと理解するからだ」王樹槐『外人与戊戌変法』中央研究院近代史研究所(台湾)、1965 年、p21。→ 西洋社会におけるキリスト教のあり方、その影響力に注目。

彼らは、洋務が知識人とは異なりキリスト教を冷静かつ高く評価してはいるが、決してキリスト教徒とはならなかった。戊戌維新家の中にキリスト者はひとりもいない。20 世紀以降の革命派(孫文ら) の多くがキリスト者であったことと、極めて対照的。

3) 宣教師と社会救済事業について

- ・洋務派・維新派知識人の関心事＝「富強」「保国保種保教」
- ・宣教師の関心事＝社会改良事業。 聖書の教えに忠実であらうとする宣教師の働き。

医療活動・教育活動(学校設立。特に女子教育)

災害救済(1876 年～79 年の東北部大災害。1877 年山東省大飢饉)

アヘン中毒者救済・アヘン禁止・纏足廃止。

⇒ 宣教師のこうした活動は、伝道拡大のきっかけとなっただけでなく、地方行政の政策にも影響。

6. 近代化の軋み

宣教師の戦争認識と文明観／不平等条約問題／反キリスト教運動

7. 天安門事件と 08 憲章、香港の民主化デモ そしてキリスト教

近現代中国キリスト教史重要事項年表

1807 年 モリソン来華。

1842 年 アヘン戦争終結。南京条約。不平等条約体制の始まり。

1853 年 太平天国設立。南京に首都を置き天京と称する。天王=洪秀全。

1856 年 アロー戦争（第二次アヘン戦争）。

1858 年 天津条約。

1860 年 北京条約。アロー戦争終結。反キリスト教闘争激化（90 年代末まで）

1862 年 同治中興。洋務運動

1870 年 天津教案。

1871 年 日清修好条規。

1874 年 台湾出兵。

1895 年 日清戦争終結。=洋務運動の終焉。変法運動の本格化。康有為、梁啓超ら、ティモシー・リチャードら宣教師の影響を受ける。

変法運動と並行して、革命運動も活発化。孫文。

1900 年 義和団戦争。惠州蜂起計画、失敗。

1901 年 北京議定書。キリスト教にとって最も有利な条項が盛り込まれた国際条約。
光緒新政(実際に進めたのは西太后)。

1908 年 光緒帝、西太后相次いで死去。

1911 年 武昌蜂起。辛亥革命。

1912 年 清朝崩壊。中華民国成立。孫文、臨時大總統

1919 年 五四運動

1931 年 満州事変

1937 年 日中全面戦争

1949 年 中華人民共和国成立

1952 年 中華民国時代のミッション系大学再編、すべて国立に。宣教師国外退去。

1966 年 文化大革命。キリスト教活動壊滅。

1976 年 四五天安門事件。

1979 年 上海のプロテスタント教会、文革後初の礼拝。

1989 年 六四天安門事件。

2012 年 ごろから教会の十字架撤去、会堂取り壊しが頻発。

2018 年 各地の家の教会の指導者失踪。

2019 年 6 月 12 日 香港で大規模デモ。